

須坂市の景観計画や都市計画マスタープランをもとにした、複数回にわたるフィールドワークを経て、私は今回対象となった街区および周辺の地域に対して、谷街道から少し中に入った『ウラ』に須坂の隠れた魅力があり、それを活用していくことで、「蔵の町並み」という『オモテ』がより良いものとなっていくと考察した。

私の設計では、ステップごとに谷街道とその周辺に点在している蔵を修景し活用していく。

「オモテ」となる谷街道では、街道沿いに残る伝統的建造物により触れてもらうために、ステップごと交通量の制限をして歩行者のための空間をつくる。

「ウラ」となる街道から少し入ったところでは、ステップごとに倉庫・蔵を活用していく。ステップ1で片流れ屋根の倉庫を活用したフリーマーケット施設、子どもが集まるたまり場などをつくる。ステップ2では蔵を再生し、古本図書、カフェ、音楽教室、陶芸教室をつくる。ステップ3で蔵をさらに活用するために、シンボルとなるYAGURAを建て、それを介して蔵をつなぎ、人が集まる空間を作る。

「オモテ」に来た人は「ウラ」を知り、より「オモテ」を知る。「ウラ」を知る人は「オモテ」をより良くする。

これが私が提案する街区の再生です。